

接着臨床を究める Contents

歯科臨床 40 年を振り返って

臨床・1970 年代

◆予知性の高い修復をめざし、精度を追求 …………… 8

- 開業時の歯科臨床に対するこだわりは、歯を抜かない歯科医師 8
- 開業 1 年半で診療所を移転する 9
- 受診者から受ける歯冠修復物の耐用年数に関する質問に困惑する 9
- 最初の 10 年は修復物の精度向上に必死であった 10
- 精度追求における最初の取り組みは印象法であった 11
- クラウンマージン部の浮き上がりに愕然とする 13
- 適合精度に対する建前と現実 14
- 診療室では修復治療が中心であったが、う蝕予防にも関心はあった 15
- 精度の高い修復物を得るためには術式をトータルで検証する必要があると考えた 16
- 2 級インレーの二次う蝕で衝撃を受ける 17
- 脱離と二次う蝕により、無機セメントに依存した歯冠修復法の限界を意識する 17
- 現状の適合精度 (50 ~ 80 μ m) でも良好に修復物を維持できる装着材を探し求める 19
- 溢れる歯科受診者を前にして自由診療思考に疑問をもち始める 20
- アメリカの ADA に参加してブラッシング指導と材料の通販システムに衝撃を受ける 20
- 保険医療の質を確保する目的で分院を開設 21

◆現在でも経過を追える歯冠修復症例 …………… 24

- 誌上発表した症例のその後 (30 年以上の長期経過) 24
 - 修復歯数は多かったが、良好な経過を得られた 25
 - 初診時に欠損・崩壊が進んでいる症例は、失活歯の強度不足・残存歯への負担増などの悪条件が修復歯の生存維持を難しくする 29
 - 初診時に欠損・失活歯の少ない症例は、再修復が多くても経過は良好である 35
- 1970 年代に治療した長期経過症例から見えてくるもの 40

臨床・1980 年代

◆4-META/MMA-TBB レジンの臨床への導入 …………… 42

- 増原英一先生より 4-META/MMA-TBB レジンの臨床試験を依頼される 42
- 最初になすべき事項が材料の使用操作に関する頭の切り替えであった 43
- 次の課題は 4-META/MMA-TBB レジンの歯髄為害性に対する配慮であった 43
- 最初の臨床例は歯髄損傷の心配のないエナメル質と失活歯が対象であった 44

接着歯冠修復法の基本的考え方を整理する 49

接着ブリッジ法の基本的考え方を整理する 54

◆失活歯の接着支台築造が破折歯保存に発展 …………… 71

失活歯のポストごと脱離や歯根破折に衝撃を受ける 71

接着支台築造の有効性を実証するために垂直破折歯の接着保存を行う 73

垂直破折歯の接着保存に再植法を取り入れる 75

◆4-META/MMA-TBB レジンの歯髄安全性を検証 …………… 77

4-META/MMA-TBB レジンの歯髄安全性は臨床経過から見出された 77

1980年代のマネジメント——歯科医療のあるべき姿を提言 85

臨床・1990年代

◆4-META/MMA-TBB レジンの病理組織学的検証を開始 …………… 90

4-META/MMA-TBB レジンの組織親和性 90

4-META/MMA-TBB レジンが歯髄保存療法を変えた 93

◆根管充填用シーラーとして4-META/MMA-TBB レジンを導入 …………… 98

歯周組織との親和性が有効であることを示す長期経過症例 98

◆4-META/MMA-TBB レジンを活用した根管穿孔歯の接着保存 …………… 100

臨床的分類 100

穿孔歯の処置方法 100

◆破折歯の接着治療法を発展させ、予知性を高める取り組み …………… 103

意図的再植法の術式を容易にし、創傷部を保護する接着性レジンパックを開発する 104

GTR メンブレンやエムドゲインゲルの導入で破折歯接着治療の適応範囲を広める 105

破折歯の接着治療術式を確立するための要点 106

治療術式選択のために整理した基準表とフローチャート 108

破折歯接着保存の臨床例 110

破折歯の接着治療が朝日新聞で取り上げられ大きな反響を得る 120

接着歯学の国際シンポジウムで破折歯接着保存を発表する 121

臨床評価 121

接着臨床を究める Contents

◆歯根破折を起こさない支台築造法の構築をめざす研究会を設立 …………… 123

支台築造が抱える問題 123

1997年4月、接着臨床研究会「支台築造研究部会」を立ち上げる 124

支台築造研究部会の活動内容 124

新システムの開発目標 125

新システム開発にあたって検討した項目 125

新しい支台築造システム・i-TFCシステムの構築 127

i-TFCシステムの完成と薬事申請 128

1990年代のマネジメント——新しい形の診療所を作り上げる 129

臨床・2000年代

◆終末期を視野に入れた前期高齢者歯科医療システムの構築を提言 …………… 132

高齢者のための歯科医療は歯科医療界を活性化する 134

自立した高齢者が多くなれば日本の財政問題はよくなる 134

私が考えた高齢者歯科医療のあるべき姿 135

「終末期を視野に入れた歯科医療」が強い説得力をもつことを実感する 138

特別養護老人ホームにおける歯科的健康調査 139

◆口腔インプラントの発展により、高齢者歯科医療の内容が充実 …………… 141

口腔インプラントの発展経過 141

私の医院における口腔インプラントに対する考え方の変遷 141

咬合破壊の大きい高齢者こそインプラントを必要としていると考えた 143

◆意図的再植治療の術式を容易にし、予知性を上げるMSBパック …………… 144

◆FRPのポストとスリーブが製品化され、i-TFCシステムが完成 …………… 148

i-TFCシステムの完成 148

i-TFCシステムの臨床 148

新しく展開した根築1回法 153

i-TFCシステムでトラブルを起こさないための注意点 158

i-TFCシステム・根築1回法が効果を上げた多数歯修復症例 158

i-TFCシステム・根築1回法のこれから 162

2000年代のマネジメント——質が保証された歯科医療 163

■論文リスト 164